

【議事】輸送系 1

(2) 輸送系ワーキンググループの進め方について

終了予定時間が近づき、事務局が資料 1-2 (進め方) を説明し、少々質疑があって終了した。

米本：輸送系は行きもあれば帰りもあると思うが。

事務局：明記してはいないが、第 3 回の将来輸送系の中で、そのような議論ができるようになっている。10 年 20 年後には有人もという可能性が否定できないので、議論していただきたい。

米本：有人支援の機器だけならまだしも、有人飛翔体を実現させる技術は無人のシステムとは大きな違いではないか。

松尾：そんな重要なことが「その他」には言っているのはけしからんという話ですか。

(無反応)(議事終了)

それよりも「空気吸い込み型」「完全再使用」の下段システムへの道を議論していただきたい。

大気中を飛行するとき、ロケットの重量の大半を占める酸素を加速するのは無駄である。大気中から取り込みながら推進すれば良い。そのためにスクラムジェットの研究が進められているが、それは今のところ基礎研究で良い。先ず、リニアモーターを使い、ラムジェットに点火できるまで加速して離陸し、ゆっくり高高度まで到達したら、上段システムを分離放出するシステムは如何か。最初に手がけるシステムは、上段使い切りで構わないし、小型衛星を打上げる程度の能力のもので良い。

原理的にコスト 10 分の一のシステムが欲しいので、このように提案したい。それが実現すれば「太陽発電衛星」の実現に大いに貢献する。

「太陽発電衛星」は「技術的にフィージブルであるが、経済的、政治的にフィージブルでない。」と大分昔に米国で評価された。年月を経て、今や「政治的にはフィージブルになりそう。」な世界状況にある。従って、残る課題は「経済的にフィージブルにする。」ことである。

紙面が余ったので、勝手放題に書いてみました。